

活動分野	緑のおもしろ講座		
タイトル	身近にある里山 再発見		
実施日時	平成 28 年 10 月 2 日（日）10 時 ～ 12 時		
実施場所	千葉市都市緑化植物園		
受講者	14 名	F I C 会員他スタッフ	3 名

## 活動の内容

緑のおもしろ講座平成 28 年度後期のスタート。事務局より開講の挨拶、講師プロフィール紹介。

近年、流行語のように使われている“里山”という言葉について、その歴史と現状を考える。

- “里山”は、昭和 30 年代、四手井綱英京大名誉教授が、“農用林”を分かりやすくとの思いから使われたことが、一般に広まるきっかけとなったもの。現在は、広く文化習俗も含んで、流行語のように使われることが多くなっている。



- 千葉市都市緑化植物園主催の野外観察会のタイトルに、“里山”、“雑木林”、“鎮守の森”などの単語を入れると、応募が多くなる傾向が確認されている。一般のイベントでも、“サトヤマ SATOYAMA”をキーワードにする例が多くなっている。実態は分からなくても、なんとなくロマンを感じる人が多いものと思われる。
- 人が住み、作り上げた“里山を守る”ということは、常に手を入れていなければ維持することはできない。“孫子の代までそこにある”ということを念頭において、取り組むべき課題と考える。
- 千葉市都市緑化植物園周辺に残る里山の景観に注目し、明治～大正～昭和～平成と、その変遷をたどり、里山保全の難しさを再認識した。都市緑化植物園裏手の谷津田も、2007 年を最後に、耕作放棄され、休耕田となっているのが現実。



五神名地神塔（三上神社）



里山で守られる信仰も、変化が見られる。辻に祀られた弁財天も移動を余儀なくされている。

神社に祀られる諸神も、移動、合祀といった状況が現状。

- 身近にある里山を見つけ、注目していくことが“里山”を守ることにつながる道と結論付けて終講。

午後、希望者で近くの里山、鎮守の森の散策を楽しんだ。植物園内を安住の地として鎮まっておられる弁財天様の話題で盛り上がった。

近くの三上神社は、開発に伴って居場所をなくされた諸神が合祀されている。地域の方々が大切に守っておられる鎮守の森であり、諸信仰である。